当日配布資料　4

障害共生基金の活用について

団体ヒアリング等で、基金の活用につながるような意見の抜粋

７　誰もが意思疎通（コミュニケーション）がしやすい社会について

・令和６年度に犬山市手話言語条例ができたと今回初めて知った。障害に関わる団体でも知らないので、もっと市民に向けて普及啓発が必要ではないか。

・小中学生に、手話のLINEスタンプや手話イラストのグッズをプレゼントして、手話を身近に感じてもらえるのではないか。

・公共施設や学校などに手話の絵などが掲示してあれば、手話啓発に対して長期にわたる効果があるのでないか。

・「9/23 手話言語の国際デー・手話の日」の啓発イベントなどを開催してはどうか。

・「『やさしい』おみせ」の情報を市のホームページだけでなく、市広報への掲載やチラシを作成してもっとＰＲしてはどうか。どんな配慮ができるのかも、分かりやすく記載して欲しい。

９「誰もが地域であんきに暮らせるまち」について

・だれでも参加できる観劇会やコンサートを開催してはどうか。

※医療ケアがある障害者は何らかの機械音がしてしまう

知的障害あり、奇声をあげてしまう

・・・などの理由で、参加を躊躇してしまう方も気軽に参加できると良い。

・だれでも（障害者、老人、子育て世代など）集える場所が増えるとよい。

・防災ラジオを公共施設やサービス事業所になどに置いてはどうか。

・福祉まつりは「福祉」に関心のある人しか参加しないので、まずは、福祉に興味や関心を持ってもらえるように、福祉だけではない何かと合わせたイベントを企画して、福祉に興味を持ってもらえるようにしてはどうか。

・福祉関係の職場に、もっと人が集まって欲しい。

・市民文化会館のマルチトイレに、ユニバーサルベットを設置ができないか。